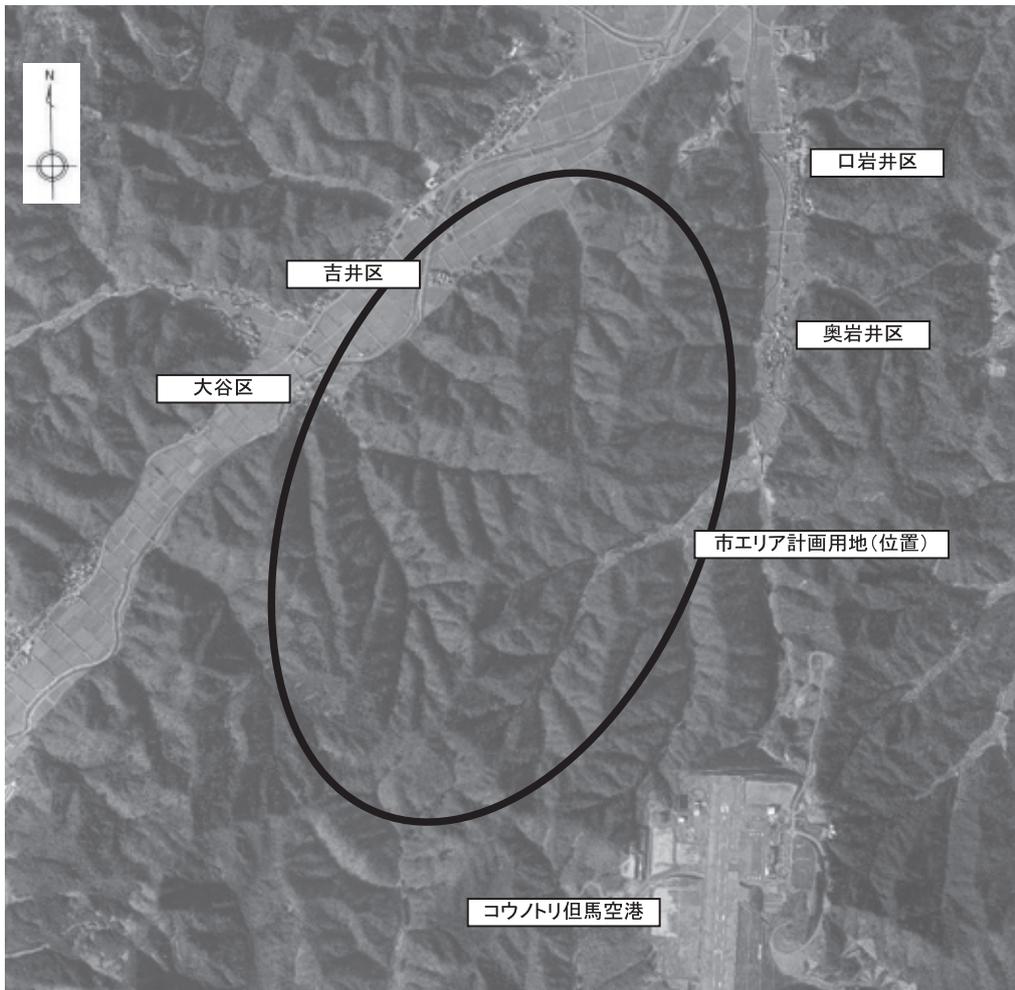


「空港周辺里山ふれあいの森」構想 ～木質バイオマスモデル～ を策定しました!

—森林の利活用と将来世代負担軽減を目指して—



▲コウノトリ但馬空港と市エリア計画用地(位置)

市では、但馬空港周辺用地の市エリア202ヘクタール(買収済みの面積)の森林(奥岩井区、口岩井区、吉井区、大谷区)の利活用について、平成21年度から検討を進めてきました。このたび木質バイオマス活用モデルとして、「里山林の適正整備・保全」「木質バイオマスの活用」「林業従事者の育成」の三つを整備の基本方針とした「空港周辺里山ふれあいの森」構想を策定しました。
 今後は、この構想に基づき、事業を進めることとしています。
 《問合せ》政策調整課 ☎21-9022

経過

空港周辺用地は、但馬空港整備に合わせ、空港周辺用地の無秩序開発の防止、新しいまちづくりを目的として、兵庫県と旧豊岡市(合併前)の各土地開発公社が平成3年度から先行取得に取り組んできました。

しかし、阪神・淡路大震災やバブル経済の崩壊により、社会経済情勢が大きく変化したため、具体的な計画が策定されないまま、市エリアは平成14年度に用地取得凍結の方針を決定しました。

以後、合併前では台風23号の災害対策や1市5町の合併協議などへの対応、合併後は災害復旧や総合計画、行政改革大綱の策定など、新市のまちづくりを重点に取り組んできたことから、空港周辺用地は利用されない状態が長い間続いていました。

現在、市エリアの用地は、豊岡市土地開発公社が借入金により取得し、所有していますが、このまま放置すると利息の支払いが続き、将来の負担が大きくなります。また、この用地は、豊岡市が買い取る約束をしています。

合併前の喫緊の課題についてのめどが立った平成21年度には市職員による検討、平成22年度には県と調査・研究を進め、平成23年度に「空港周辺里山ふれあいの森」構想を策定しました。

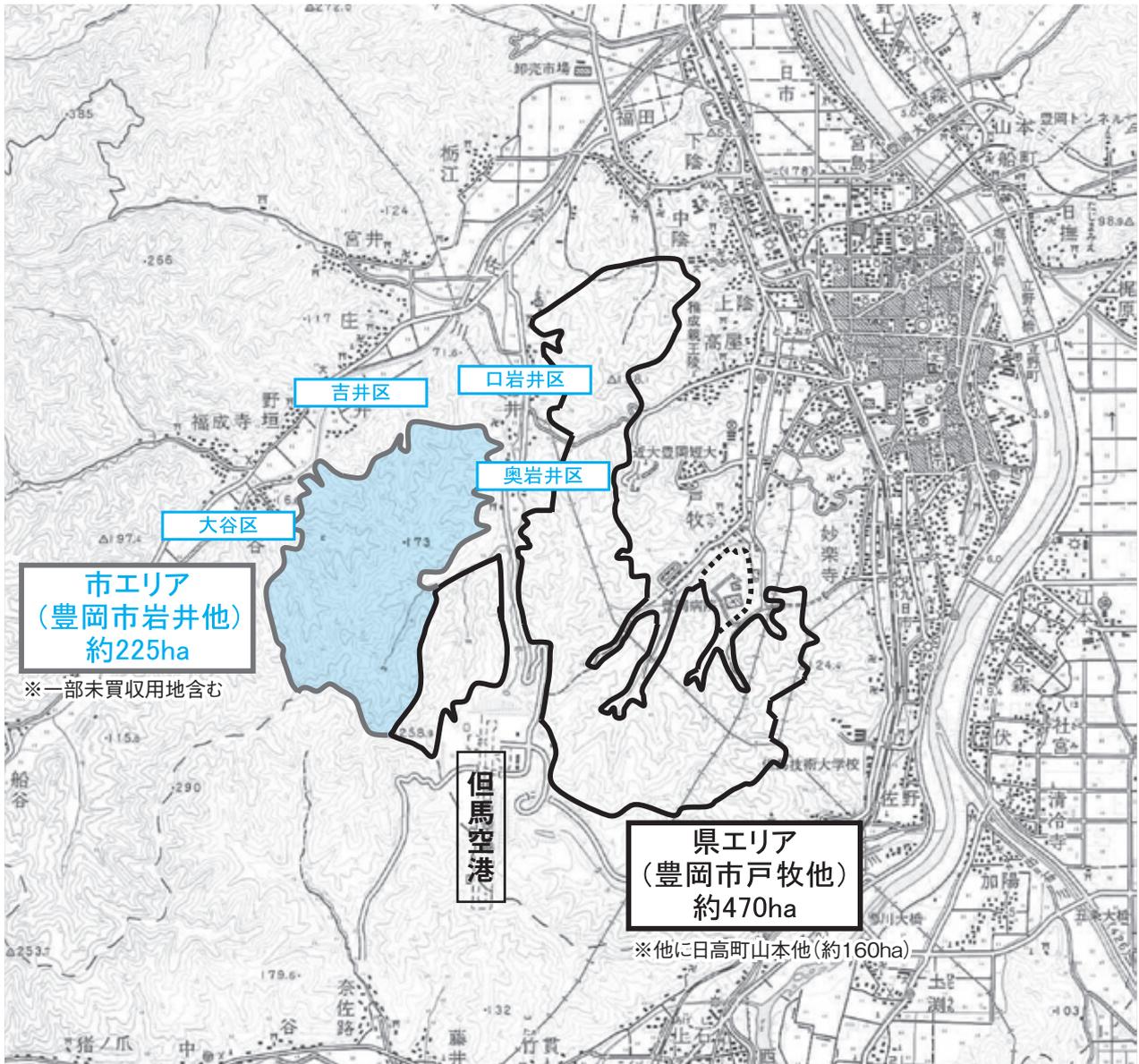
兵庫県エリアは、環境林として県が取得し、適切な管理を行う方針です。

整備の基本方針

大規模な開発・投資は控え、整備後の維持管理経費の軽減も考えながら、次の三つを整備の基本方針として定め、取り組むこととします。

1 里山林の適正整備・保全

除間伐などの実施により里山林を適正に整備・保全することで、水源かん養(水を育み洪水を防ぐ)・土砂災害防止(土砂の流出を防ぐ)・山崩れ、なだれを防ぐ)・二酸化



▲空港周辺計画用地(計画用地のため未買収用地面積含む)

概算事業費

項目		金額
買い取りの内訳	用地取得費等	14億6千万円
	利息	3億2千万円
	事務費	2千万円
	小計	18億円
整備費		1億円
合計		19億円

整備スケジュール

年度	内容
平成24年度	用地の買い取り 測量業務等
平成25年度	工事着工
平成26年度	年度末完成

事業費は、用地の先行取得を行った市土地開発公社から

概算事業費

まで行うことができる自伐林家を育成します。

3 林業従事者の育成

自分の山で除間伐から搬出などの燃料となる「ペレット」

2 木質バイオマスの活用

里山林整備により発生した除間伐材をペレットストーブ

17億円必要であったと考えられます。

国の有利な財源を充てること

事業を実施していた場合は、

6億3700万円余りと試算

しており、利息相当額を除くと、

掛かっていた計算となります。

なお、事業費には有利な財

源措置を充てることを予定し

ており、利息相当額を除くと、

実質の負担額は約3分の1の

6億3700万円余りと試算

してあります。仮に、合併前に